

【火山活動の異常現象】

火山といえば普通何を思い浮かべるでしょうか？溶岩や噴煙そして噴石や火山灰などを噴出する「噴火」現象が第一だと思います。最近では2000年の有珠山や三宅島の噴火が鮮明な記憶として残っています。

火山噴火の前には、マグマや高温高圧の水蒸気が地表付近まで上昇するため、普段は見られない様々な現象が起きます。たとえば、地震の群発、火山性微動の発生、地殻変動、噴気温度の上昇、噴煙や火山ガスの増加などがあげられます。こうした現象は前兆現象あるいは前駆現象と呼ばれ、高感度の観測機器を用いて連続的に監視・観測することで捉えることができます。



有珠山2000年の噴火前に見つかった国道230号線の亀裂（北海道立地質研究所撮影）

これらの現象が顕著になると体感でも明確に認識されることがあります。微小な地震は体に感じることはありませんが、浅いところで発生した地震はおよそマグニチュード2以上になると体感されるようになります。

地殻変動が大きくなると、地割れや隆起として認められるほか、電線のたるみなどによっても確認できる場合があります。

また、通常地熱のない場所で温度が上昇すると、植物が枯れたり噴気が認められたりすることがあります。

火山ガスは、火口や噴気孔などから放出される気体のことで、成分の大部分は水蒸気ですが、その他、二酸化炭素（ CO_2 ）、硫化水素（ H_2S ）、二酸化硫黄（ SO_2 ）などを含みます。二酸化炭素は無色無臭、硫化水素は卵の腐ったような臭い、二酸化硫黄は刺激臭が特徴としてあげられます。火山ガスは空気よりも重いため、窪地や谷などに滞留することがありますので注意する必要があります。時には小動物の死骸により火山ガスの存在が認められる場合もあります。

このような異変に気づいた場合は、最寄りの自治体、警察、気象台などへの通報をお願いします。



十勝岳62-2火口の噴煙